

## 三井グループ350周年記念「三井文庫所蔵史料デジタルアーカイブ事業」 5月18日より約15,000点の歴史資料をオンライン公開 ～近世と近代の三井の事業に関わる貴重な資料を、全世界へ向けて発信～

三井グループおよび公益財団法人 三井文庫(以下、三井文庫)は、2023年より、三井グループ350周年を記念した「三井文庫所蔵史料デジタルアーカイブ事業」に取り組み、三井文庫の所蔵する近世資料(三井家記録文書)と近代会社資料(三井銀行、旧三井物産(※<sup>1</sup>)、三井鉱山)など、約30,000点分の資料のデジタル画像作成を推進しております。この度、その中から約15,000点の三井の事業に関わる資料画像の公開準備が整ったため、5月18日(月)より、オンラインでの公開を開始する運びとなりました。

今回公開する資料画像は、近世(江戸時代)と近代(明治時代～財閥解体)の三井の事業に関わる内容で、日本の企業史、経済史、近現代史を紐解く貴重なデータです。1710年から約160年にわたる事業推移がうかがえる、近世三井の総決算帳簿「大元方勘定目録(おおもとかたかんじょうもくろく)」、日々の記録とともに、天気や日々の米価・為替相場などが記載されている大坂両替店の業務日誌「大坂両替店日記録(おおさかりょうがえだなにつきろく)」など、当時の様子を推し測れる資料画像を大規模に公開してまいります。

三井文庫所蔵資料のデジタル画像をオンラインで公開する本事業は、三井文庫にとって初の取り組みであり、これまでにない規模で資料画像を公開するものです。今回のオンライン公開を通じて、三井の歴史資料を全世界に向けて発信できるようになりました。本公開は、日本の企業史・経済史・近現代史を研究する国内外の研究者のみならず、小学校から高校までの教育現場の教員、日本史や経済史に関心をもつ学生、ファミリーヒストリーを探究する一般の利用者、さらには社史や自治体史などの歴史編さん事業に携わる方々まで、幅広い層に活用されることを想定しています。これにより、世界中に広く三井の歴史を伝えていくことを目指します。

(※<sup>1</sup>)法的には旧三井物産と現在の三井物産には継続性はなく、全く別個の企業体となります。



三井文庫デジタルアーカイブ トップページ



三井文庫デジタルアーカイブ 検索結果一覧

### 「三井文庫所蔵史料デジタルアーカイブ事業」概要

#### 【事業期間】

2023年度～2027年度の5ヶ年計画、2026年度は4ヶ年目

#### 【概要】

三井グループ350周年記念事業の一環として、三井文庫所蔵資料(約100,000点)のうち、ビジネスアーカイブ約82,700点から約30,000点をデジタル画像化。今回はその中の約15,000点を公開いたします。事業期間終了までに約20,000点の資料を公開する予定です。

## 【公開日程】

2026年5月18日（月）

## 【三井文庫デジタルアーカイブ/Mitsui Bunko Business Archives URL】

<https://www2.i-repository.net/il/meta/G0000114mitsui>

## 【目 的】

### 1. 資料保全

現物資料の物理的な破損や経年劣化から資料を保護するため、及び大規模災害からの損害を防ぐための対策として、資料のデジタル化を行い資料の保全と次世代への承継を図ります。

### 2. アクセス性の向上と資料の利活用

資料のデジタル画像をオンラインで公開することで、アクセス性を高め、より多くの方が資料を利用いただけるようにします。これは、三井の歴史研究の進展にも寄与します。

## 【公開方法】

### 無料公開

※利用者登録し ID/パスワード発行。利用期間は無期限。

5月18日（月）より三井文庫（史料館）Web サイトにて利用申し込み受付開始。

<https://mitsui-bunko.or.jp/archives/>

※資料画像をメディアなどに掲載する場合は原則、別途申請・掲載料が必要。

## 【公開資料画像概要】

三井文庫所蔵資料のうち、近世（江戸時代）と近代（明治時代～財閥解体）の事業資料を対象に、研究に資する価値の高い資料や、利用頻度の高い資料のデジタル画像を公開。その範囲は、事業に関わる帳簿、報告書、議案、規則、書状、図面、営業案内など多岐にわたります。

## 具体例

### 1. 抱屋敷絵図(かかえやしきえず)

三井が江戸で所有していた町屋敷の絵図。建築史の研究で使われることもあり、江戸町屋敷の構造の可視化に貢献。都市空間研究に資する貴重な資料です。

### 2. 家有帳(いえありちよう)

江戸時代の三井が江戸・京・大坂・松坂に所有していた全所有地のリスト。土地の所在地や広さ・価格・取得した年月日などが記載されています。江戸時代の三井の所有地を見る基礎資料の一つ。

### 3. 旧三井物産(きゅうみついぶっさん)「日記」

旧三井物産本店の業務日誌で、取引内容、社員の動き、人事、三井銀行や政府・官庁との連絡などを知ることができる貴重な資料。

### 4. 三井合名会社(みついごうめいがいしゃ)「理事会記録」

三井の全事業を統括した三井合名会社における理事会の記録。理事会では、合名会社自身だけでなく、旧三井物産、三井鉱山などの重要な議案も回付・審議されました。大正13年から昭和15年までの、三井財閥の重要な意思決定の全体像を把握することができます。



## ■公益財団法人 三井文庫について

三井文庫は、社会経済史資料の保存・公開、調査研究をおこなう史料館（三井文庫本館）と、美術品の保存・公開、調査研究をおこなう三井記念美術館からなる非営利の研究機関（公益財団法人）です。

- ・公益財団法人三井文庫ホームページ

<https://mitsui-bunko.or.jp/foundation/index.html>



三井文庫外観

## ■三井グループ 350 周年記念事業について



- ・三井グループ 350 周年記念事業ホームページ

<https://www.mitsui350th.com>

- ・三井グループ 350 周年記念事業紹介レポート

"知らない三井に出会う「Meet the MITSUI」" report005

「江戸時代から残されてきた三井家の貴重史料をデジタル化！10万点の史料を所蔵する三井文庫の取り組みを調査」

<https://mitsui350th.com/report/5.html>